

1 開催日時

令和6年3月18日（月）午前10時から午前11時30分まで

2 開催場所

成田市役所 6階 中会議室

3 出席者

（委員）

山下会長（Zoom）、玄道副会長、檜垣委員、吉田委員、栗田委員、石井委員、
沓掛委員、宮崎委員 以上8人

（欠席：長島委員、塚田委員）

（事務局）

米本福祉部長

森田介護保険課長、青野係長、寺嶋主査、加瀬副主査

藤崎高齢者福祉課長、檜垣係長、工藤主査

西部北地域包括支援センター（北村管理者）

南部地域包括支援センター（井上管理者）

西部南地域包括支援センター（坂上主任ケアマネジャー）

東部地域包括支援センター（岩澤管理者）

西部西地域包括支援センター（木下管理者）

4 会議次第

1 開 会

2 会長挨拶

3 福祉部長挨拶

4 議 題

（1）地域包括支援センターの運営等に関する事

①令和5年度地域包括支援センターの評価について

②令和6年度地域包括支援センター事業計画について

③介護予防支援業務等の一部委託について

（2）地域密着型サービスの運営等に関する事

（3）その他

5 閉 会

5 議事（要旨）

（1）地域包括支援センターの運営等に関する事

○事務局

○資料により、第9期介護保険事業計画（令和6年度から令和8年度）における地域包括支援センターに関する主な内容を説明。

・日常生活圏域名及び地域包括支援センターの正式名称を、地区名を冠した名称に令和6年度から変更する。

・地域包括支援センターにおけるケアプラン作成数の増加や居宅事業者への委託が困難になってきている現状から、令和6年度の介護保険法改正等も鑑みて、センターの職員1人当たりの担当件数の上限を、次年度契約から15件/月から17件/月に変更する。

・地域包括支援センターから居宅介護支援事業所の一部委託について、令和6年度から介護保険法の改正により、居宅介護支援事業所が直接利用者の予防プランを受注できることになる。これにより地域包括支援センターの業務負担の軽減が図られるものと期待される。

○冊子資料により、各地域包括支援センターの実施基準に対する評価結果、厚生労働省による全国統一評価の結果、各センターにおける介護予防支援業務または第1号介護予防支援事業の一部を委託している居宅介護支援事業所を説明。

○各センター職員から令和6年度の事業計画を説明。

主な質疑は次のとおり。

●宮崎委員

ニュータウンのセンターの方からケアマネ不足という話があったが、これはニュータウンだけに限らず、おそらく他のセンターも同様であると思う。人材確保など、市はどのように考えているのか、お聞きしたい。

○事務局

ケアマネジャーについて現在のところは、介護を必要とする高齢者が介護サービスを利用することができないなどの状況は生じていないと認識しており、人数は確保されているものと考えている。介護事業者からは、スムーズにケアマネジャーを決めることが困難な場合、他の事業所の調整を図る必要があるなど声も聞いている。今後も介護を必要とする高齢者の増加が見込まれることから、引き続き介護事業者の意見を聞きながら、必要な対応をとっていきたい。

●山下会長

ケアマネジャーが足りないというのは、今ほどの自治体でも聞かれることで、自治体の取り組みというよりは、政策的な課題があるのか、それとも介護報酬やその経営面に関連して、居宅介護支援事業所の参入というのが難しいのか。このように関係者が集まる会議なので、成田市というよりも、もう少し幅広い観点で、一度意見交換してみてもいいかと思っている。成田市の実態について、ケアマネジャーやケアマネ事業所、あるいは訪問介護事業所など、通所介護においては経営自体がまた厳しい状態が続いていると思うので、そうした議論が必要であると思う。

○事務局

山下会長がお話ししたとおり、各事業所等も含めて、話を伺っていく中で現状を把握していきたい。

●山下会長

ケアマネジャーの更新研修など、ケアマネジャーのその質を担保する仕組みが続けられているという点では、ケアマネジャーの政策はしっかり作られていると思うが、一方で、それがなくなるともうケアマネジャーになれなくなってしまうとか、人事異動や組織の問題など人材確保といった意味で、少し考えた方が良くもかもしれない。

●吉田委員

10 数年前から独居の高齢者にお弁当を配っているが、それを運営しているボランティアメンバーが 10 数年前からほぼ変わっていない。私も 50 代から始めたが、もう 70 になり、地域でボランティア活動を行う人がどんどん高齢化していて、70 代、80 代、90 近い人が見回りなどをしている状況である。民生委員についても高齢化していて、特に農村部は若い人たちは働くことで精一杯で、ボランティアに誘ってもできないと言われてしまう。将来的に高齢者が増えていってしまう中で、どのように見守りをするのか、将来自分たちは支えてもらえるのか、実際に現場にいるととても不安を感じる。

さらに、カフェを開催したり、百歳体操に誘ったりしても、積極的に参加してくれる人と行きたくないという人で、二極化してしまっている。どのように声を掛けて、引きこもっている人を色々なところに連れ出せるのか、そういった点も難しいと思う。色々な問題がたくさんあり、どのように解決していくのか、お聞きしたいと思う。

○事務局

高齢化が進み、支え手側もすでに高齢化してしまっているという状況は、重要な問題であると考えている。介護保険課では、第 9 期介護保険事業計画の中で、令和 6 年度から国際医療福祉大学と連携し、要支援の方が訪問型・通所型のサービスを利用して、また出かけられるように、普通の生活が送れるようになるための短期集中の予防サービスを開始する。

また、住民主体による支援ということで、令和 8 年度からの導入を計画しているが、地域住民が主体となって、体操や運動、あるいは趣味活動など定期的に集まる通いの場を作る支援、また、ごみ出しなど、日常生活に困っている方に支援をする訪問型のサービスを、住民ボランティアに主体となって行っていただくサービス B を整備をしていこうと考えている。若い人は、これからは共働きの世代になり、外に働きに出ることが主になってくるので、高齢者の支援を若い人にお願いするというよりは、元気な高齢者が少し大変になっている高齢者をお互いに支え合うというような社会にしていく必要があると思っている。介護保険課では、ボランティアの百歳体操サポーター養成講座であるとか、ボランティア活動を支援していきながら、地域でお互いに支え合える仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えている。

●吉田委員

元気な高齢者が高齢者を支えていくという点について、今もそうだが、これからはますますそうになっていくというのは、とてもよく分かる。いつまでも元気でいること、

それを続けるための色々な集まりや体操、みんなが集まって出かけるというのもいいことではないかと思う。

●宮崎委員

支え手の件について、この場は高齢者福祉課、介護保険課、その関係の地域包括支援センターなどになるが、やはり孤独や孤立などを考えた際に、高齢者に係る部署だけではなく、生活困窮支援など、そういった部署との連携が必要になってくる。地域包括支援センターだけで全てをカバーできることではないと私自身は思っている。部内の関係課と連携しながら、それぞれの切り口、例えば障がいをお持ちである場合には障がい福祉の部署とか、相互に情報共有してやっていくことは大事であるというのは、一個人として考えている。

○事務局

重層的支援ということで、これから庁内でも連携してやっていくように仕組み作りを進めていく。また、介護保険課では、多職種連携の会議などを開催しているので、引き続き丁寧にやっていきたいと思う。

●山下会長

担い手の課題についてと今後のことについても、各圏域の社会福祉士などが一度集まって意見交換をして、その結果を少しこの会議でご披露いただくとか、委員の発言にあった認識と運営される方々の今の状況とか考えていることなども重要かと思う。圏域によっては社会福祉士の採用は難しいということのようですし、社会福祉士育成のカリキュラムについては、地域づくりといったことができる社会福祉士を育成しようという流れになっていて、大学の先生がどこまでついてくれるかなど、本格的にしていけないといけないところなのだと思う。

ボランティアについても、全く無償でやる住民主体の活動というものだけではなく、一定の活動にちょっとしたお小遣いが入ってくるようなことによって継続していくといった提案を始めている地域もある。これを各圏域の文化とか担い手の方の意識だとか、今までの構造をそのまま引き継いで、次の世代や今関わってない高齢者層が担えるかどうかというところもあると思う。

また、継続的にするためには、一定の報酬といったものもあっていいのではないかと思う。報酬といっても、1時間に100円、200円位の活動費といったものが出る活動にしていくことや、その仕組みを住民主体にアドバイスしたり、一緒に進めていくことが生活支援コーディネーターの役割でもある。また、今回ご報告いただいた評価にも、他機関連携会議や個別ケア会議を重視するなどしているのも、そうした課題について、生活支援コーディネーターだけでなく、地域包括支援センターとそうした地域資源を作っていくといったことを各職種と一緒に進めていくような発想にしていきたい、もししているのなら、そういう点も評価されてできていたと認識いただきたいと思う。

○事務局（西部北地域包括支援センター）

当センターでは、ニュータウンという地域性もあるかもしれないが、有償のボランティアなど、そういうものは多くある。誰かがゴミ捨てができないという、結構すぐに見つかって、成田市は他のところよりは、そういった資源というのは多いかと思う。また、家族にも問題があるという事例が結構あり、去年からほっとスマイルセンターや精神担当の地域生活支援センターなどを招いて、世代を超えた事例検討会の開催により、息子さんの金銭問題、アルコール依存などの問題があることについて議論した。今年度は人数を絞ったが、来年度は皆さんに声をかけて同様に実施していきたいと思う。ただ、お子さんたちが関わるというのは、当センターでは今のところあまりない。

●山下会長

乳幼児から小さいお子さんのケースなども含めた全世代型の支援はなかなか難しく、地域包括支援センターの方々がこれまで関わったケースが、高齢者のほか、同居されている方で、高齢にそろそろ近づく中年層だったり、ずっと引きこもりのまま続けていたりとか、リストラや親の介護を理由にして辞めた方とか経済的問題というのも相まって問題が現れていて、動物の多頭飼育の話もありましたが、動物自体がよい環境ではない過ごし方をしているといったことも散見されるケースがすごく多くなっていて、それを地域包括支援センターの方だけで解決しようといった発想ではなく、地域ケア会議に他機関を招くなど、地域ケア会議を活用して進めていくとよい。ただし、地域ケア会議だけでなく、内容によっては、生活困窮者自立支援法上の支援会議の方にシフトしていくといった連携・調整というの、介護保険課や高齢者福祉課と協力・協議しながら、どこが主体となってそういう会議を進めていくのかといった庁内連携があってよいと思う。地域包括支援センターの方々の仕事が増えすぎてしまうことにもなるので、センターが関わっていくのか繋ぐのかという判断も含めて庁内連携を進めていく。

また、ニュータウンの方は比較的、その有償ボランティアといった取り組みがあるかと思うが、他の圏域はなかなか理解得られないといった地域もきっとあると思う。また、経済的に疑いのある方々が増えているといったことですが、これはおそらく生活保護につなぐという、その単純な話ではなさそうなので、どのようにその経済的な課題を、地域包括支援センターの相談で発見した時に、どのように対応していくかといった一定の形を作ってもいいのかもしれない。

○事務局（南部地域包括支援センター）

南部地域包括支援センターでは、先ほどの他職種連携の話になるが、法人の中に地域生活支援センターがある。その専門職と共同して、精神的な、メンタル的な支援が必要な場合、対応が難しい場合については共同して支援を行っている。研修会に対しても、皆さんと共同して研修会を開催したりすることによって、参加してくださる人の枠が広がり、さらに連携が図れるというようなことができているかと思う。

また、地域で毎月ノルディックウォークの会を開催しているが、地域リハビリの専

門医、成田リハビリテーション病院の専門職の参加を得て、直接市民の方に介護予防の話や病気のお話を伝えていただく機会を設けている。参加者の皆さんは、もう3年目になるが、いろんな企画を、こういったことをやりたいと、文化を広げるような台湾茶の会を開きたいとか、いろんな提案をしてくださるようになり、活動の輪が広がっていると感じているのと同時に、心配な人がいるからその人も誘いたいとか、そういった積極性も見られてくるようになった。ノルディックウォークでは、歩きたいという方が今度別のサークルを立ち上げたりするなど、とても良いことだと感じている。

●山下会長

それは素晴らしいことだと思う。地域包括支援センターの相談というのが、本当に包括的に広がっているのが今回の報告でよくわかったが、スタッフ間で進め方として解決を目指すということを目的にした関わり方・アプローチ方法では、地域の広がりや住民自身が自分で介護予防などに主体的な意欲があって、前向きな活動というのが、その課題の解決になっていくというアプローチがある。先ほどの発言に活動する人とならない人が二極化されているというのがあったが、どのように私たちがそこに働きかけていくかっていうことが重要で、その方が拒否されてしまったら、またそこから考えなきゃいけないことも含めて、少し繋がり続けていこうとか、小さなゴールを作っていこうっていったことをぜひ運営者側の基本の合言葉にさせていただいて、また来年度たくさんいろんなケースが現れると思うが、少し良い支援をしていこうとか、合意を取りつつ、そして、個人・家族だけではなく、地域社会にそれが解決する種があるのかということも考えてみようという、そうした視点でこの包括支援センターの業務がまた来年度進めばいいかと思っている。

(2) 地域密着型サービスの運営等に関すること

(事務局より「地域密着型サービスの運営等に関すること」について説明)

資料：成田市地域包括支援センター等運営協議会資料 P.67～P.69 参照

質疑等、特になし。

(3) その他

●栗田委員

色々お話聞いて非常に勉強になった。私の少し思うところとしては、今我々の業界の人材不足が非常に多く、やはり賃金を上げていかないとなかなか人材を確保できないというところはあるが、そういうところというのは予算取りをしなくてははいけない。成田市の令和6年度の予算については、令和5年度から令和6年に比べると6000万ほどの増額を介護保険の方で見込んでいるというようなのを見たが、そういうところの実際のやはり人材を確保するために色々なところに予算付けをしていかななくてははいけないというところを、実際に現場で働く人たちからの声としてどういう風に上げ

ていけば市として動いてくれるのかということも非常に重要なところではないかなと思うが、市の見解は。

○事務局

介護人材の確保につきましては、市としても重要な問題であると考えている。事業所に対して、昨年度行ったアンケートについては、介護人材の確保について厳しさを増しているというような意見も聞いている。

事業所においては、必要な人員は満たして事業を行っていただいていることで把握はしているが、本市では、独自政策を実施しているところではあるが、今後も引き続きそれらの施策を積極的にPR・推進していくとともに、今後検討していきたいと考えている。

●栗田委員

その現場からどのような声を上げると市政に届きやすいのかというところがすごく重要なのではないかなと思うが。

○事務局

先ほどケアマネジャーの件でお話させていただいたとおり、今後介護事業所の方々にヒアリング等を行っていく中で意見を伺いたいと考えている。

●石井委員

私は民生委員をしているが、民生委員の立場として、すごく包括にお世話になっていて、とても助かっているが、やはり包括もすごく大変だろうというのは本当によく感じている。そのため、そういったところがもう少し解消されていけばいいかなと思う。

●沓掛委員

介護保険事業者連絡協議会では、ケアマネジャー不足が挙げられる中、今年から委員の設置などやるのがたくさん増えており、ケアプランを包括経由ではなく、直接受けられるようになれば解決できる、というのはどうなのかと思っている。あまり効果はないように思う。

また、包括が365日24時間対応していると記載があるが、それがいつまで続くのかと心配している。

○事務局

ケアマネジャーの負担が増えているということも含め、できる限り支援をしていきたいと考えている。

●檜垣委員

私は百歳体操のサポーター、いわゆるボランティアをしている。包括の計画の中にも、百歳体操の普及に努めるというような内容が書かれており、とても嬉しいことだ

と思っている。私の友人に 80 代の高齢者がいるが、その方は杖をつかないと外に出られず、最近では押し車がないと何メートルかおきに休まないと歩けないという状況だったが、整形外科にかかった際に自分で少し体操をなさいと言われ、百歳体操を自宅でやるようになったところ、少し良くなってきたという話をしてくれた。百歳体操を実際やってみて良かったのだとなりましたので、包括の方でもぜひ普及に努めていただけたら嬉しい。

包括では、土日・祭日・夜間含めて全部電話対応されているというような記載があるが、少ない人数でそれをやるのはとても大変だと思う。私も仕事をしていたときには、やはり当番制で携帯電話を持って対応していたこともあったが、外部に委託して夜間救急等は受けてもらえるようなシステムだった。包括の方ではそういったシステムはないのかお聞きしたい。そうでないと、みなさんが大変なことになってしまうと思う。夜や休日の対応を、どのようにしているかお聞きしたい。

○事務局

・西部北センター

社会福祉法人の窓口が本部にあり、土日や職員がいないときには、法人の職員が対応し、話を聞き取った上で担当を振り分けてくれている。24 時間対応で大変だと言っただけであれば、それだけでありがたい。24 時間やるのが当たり前だと言われてしまうと残念に思うが、本当に大変だと思うというお言葉で頑張ることができる。

・南部センター

3 専門職種が交代で電話番をやっている。ただ、本当に緊急の夜中の電話というものだと、どうしても医療の方になってくるかと思うので、そんなに夜中に電話がたくさんかかってくるということはない。場合によっては、電話がかかってくる際にすぐ出ることができず、あとから折り返し等の対応をさせていただく場合もあるので、今発言があったとおり、大変だと言ってくださいると本当に心強く感じる。

・西部南センター

西部北センターと同じ法人となるため、24 時間体制については、法人の方でもフォローしてもらっている。また、3 専門職種が持ち回りで緊急の電話を持っており、24 時間体制をとらせてもらっている。南部センターと同じで、何回もコールがあった場合や、警察などの番号は警察と表示されるようになっているので、その際は対応させていただいている。不安で一日に何度も電話をくださる方の名前も表示されるようになっており、すぐに出られないこともあるが、できる限り対応している。ありがたいお言葉をいただいたので、みんなで頑張れるかと思っている。

・東部センター

基本的に現場の職員で、1 週間交代という当番制で対応させていただいている。先ほど吉田委員からの意見を頂戴し、本当に昔からお世話になっており、地域の方と一緒に考えてくれる存在がいるということが、包括からすれば、本当にありがたいこと

である。繋がりがあるとそれだけでできることもあり、たとえば土日の電話対応だと、職員が出先で電話を受けたが、対応したくてもどうしても対応できない、他の職員も対応できないという場合に、地域の民生委員など、任せてしまって本当に申し訳ないが、見守りで訪問していただくという事例もある。そういった繋がりの中で、これからも頑張っていきたいとあらためて思った。

・西部西センター

夜間と休日はセンターにかかってきた電話を携帯電話の方に転送し、管理者で対応している。夜間の電話というものは稀であるが、土曜日は結構かかってくる。また、24時間365日相談受付できるという文面を見て、新規でかかってくる電話もある。それらに対応しながら、初めて相談を受けた際やケアプランを担当した際に、利用者等へいつでも電話がつながるので、何かあれば遠慮なく電話するよう伝えている。そのように伝えると、相手の方はとても安心だと言ってくれるので、大変ではあるが、その機能はとても大事だと思っている。

●玄道副会長

ケアマネ不足と言われていることは事実で、ケアマネジャーも高齢になっており、辞めていく方が増えてきていると感じている。やる業務もとても多く、今回の介護保険法の改正で、要支援も要介護でも枠を超えてもっと持っていていいと言われているが、人数を持てばいいという問題ではなく、それだけ仕事量が増えるというところで、少し頭が痛いところだと思っている。

地域との繋がりというところでは、石川県で災害が起きた際に、高校生ぐらいの男の子が、この町が大好きだからボランティアで片付けをしているのだということを話していた。歳をとっても、自分たちがこの市で年を重ねていきたいという気持ちになれるように、魅力のあるまちづくり、成田市づくりが必要だと思っている。この会にも若い方々、中学生や高校生の人たちを招いて、若い柔軟性のある思考で今成田市は高齢化が進んでいるので、こういったことに困っているというところを、今後を背負っていく若い世代の人たちに問題を投げかけるということも必要ではないかと思う。お弁当の配達などの問題も、もしかしたら中学生や高校生の子供たちが、夏休みだったら配ってあげられるといったように、ボランティアというか、1日100円や200円で活動をしていただければ、その分民生委員も少しは楽になるのではないかと。ということで、実際若い世代と高齢者の方々がふれあうことも大切だと思っている。もしかしたらその中でヤングケアラーというのも見発見できるかもしれないなど考えました。

●山下会長

本日の会議では、評価結果自体はおおむね良いが、現場のさまざまな相談やその地域づくりの困難というものがこの評価の数値や資料では見えないところが随分あるのだろうと思う。私もこの方面が専門であるので、運営協議会と別のところでまた皆さまと今日取り上げられた課題というものを少し丁寧に議論してみるといったこと

も必要ではないかという気持ちもある。若年層などにもどう関わるか、今後また教育委員会など、行政の方でどういうふうにそれを仕掛けるかといった準備も必要かと思うので、しっかり色々な方面から進めていくといいかと思う。

〈議事終了〉

6 傍聴

2人

7 次回開催日時（予定）

令和6年8月